

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.8.31 時点)

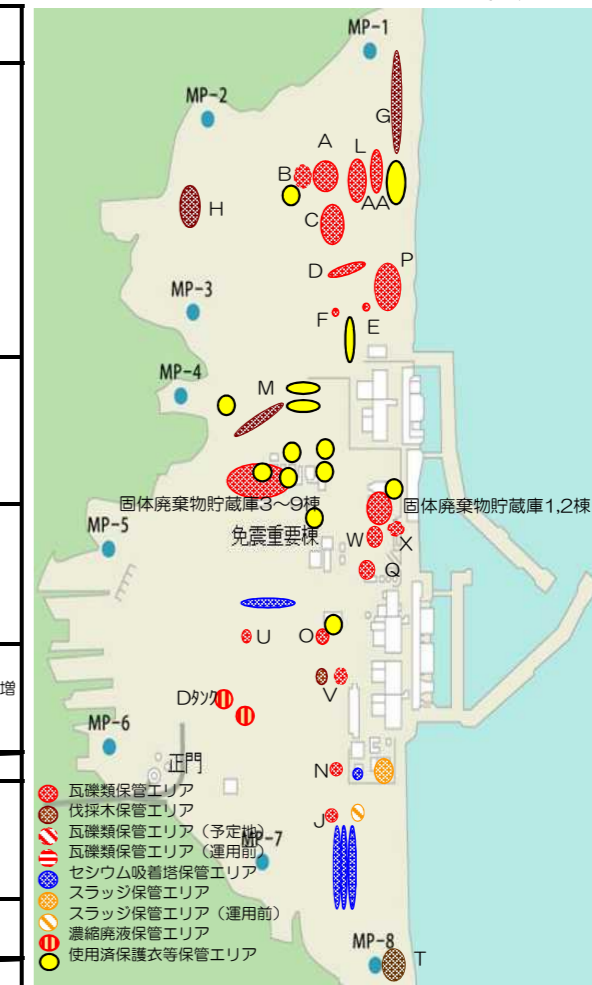
分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比 ^{※1} (2018.9.6)	変動 ^{※2} 理由	エリア 占有率	保管量 ^{※3} /保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	3,000 m ³	+200 m ³	①	91%	180000 / 250700 (72%)	・フランジタンク解体片 2018年8月末時点でコンテナ780基保管。 エリアP1コンテナ数：646基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：134基 (2018年3月15日～)
	C	屋外集積	0.01未満	62,300 m ³	+600 m ³	②③	98%		
	F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85%		
	J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	53%		
	N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45%		
	O	屋外集積	0.01未満	43,500 m ³	微増 m ³	—	85%		
	P1	屋外集積	0.01	48,900 m ³	+600 m ³	②④	76%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	2,000 m ³	+400 m ³	②⑤⑥	34%		
	AA	屋外集積	0.01未満	4,400 m ³	微増 m ³	—	12%		
瓦礫類 シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58%	38200 / 71000 (54%)	・エリアWでの車両解体(プレス等)完了。(2018年1月)
	E1	シート養生	0.02	14,000 m ³	微増 m ³	—	88%		
	P2	シート養生	0.01	5,500 m ³	微減 m ³	—	61%		
	W	シート養生	0.04	8,100 m ³	+100 m ³	②	28%		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m ³	+300 m ³	⑦	100%	19300 / 31700 (61%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量(4,000m ³)増加。 (2018年5月)
	A	仮設保管設備	0.15	1,000 m ³	微減 m ³	—	14%		
	E2	容器 ^{※4}	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19%		
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%		
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.01	10,000 m ³	+200 m ³	②⑨	22%	10000 / 45600 (22%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量(33,600m ³)増加。 (2018年2月)
	合計(ガレキ)				247,300 m ³	+2,300 m ³	—	62%	
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,200 m ³	0 m ³	—	63%	96600 / 134000 (72%)	
	H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600 m ³	0 m ³	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	100 m ³	0 m ³	—	2%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—		
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%			
合計(伐採木)				133,900 m ³	0 m ³	—	76%		
保護衣 屋外集積	容器	0.04	56,700 m ³	+1,300 m ³	⑩	80%	56700 / 71200 (80%)	・使用済保護衣等焼却量 4360t (2018年8月末累積) ・焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 965本 (2018年7月末累積)	
合計(使用済保護衣等)				56,700 m ³	+1,300 m ³	—	80%		

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

※2 主な変動理由：①海洋汚染除去装置の除去工事 ②タンク関連工事 ③一時保管エリアP1から瓦礫の移動 ④金属パレット破砕業務 ⑤破砕物の受入 ⑥構内瓦礫保管 ⑦一時保管エリアAから瓦礫の移動
⑧瓦礫を固体庫に移動 ⑨一時保管エリアQからの移動 ⑩使用済保護衣等の受入

※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

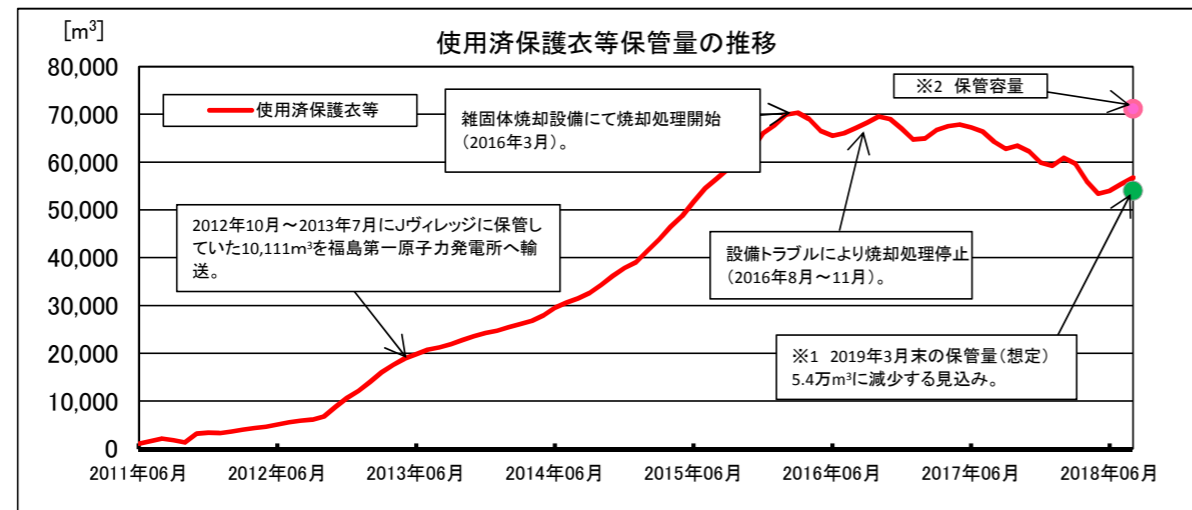
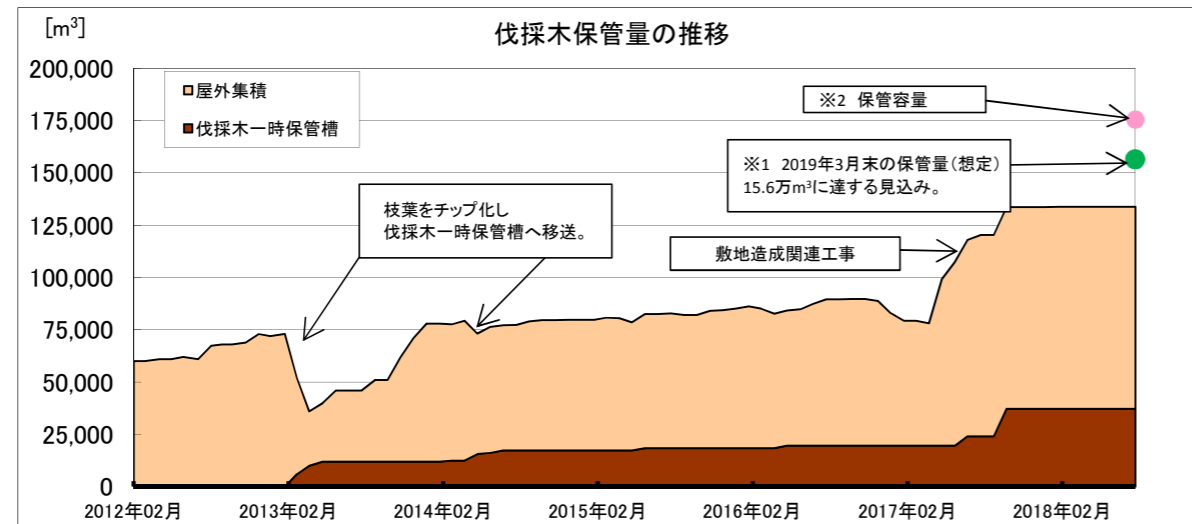
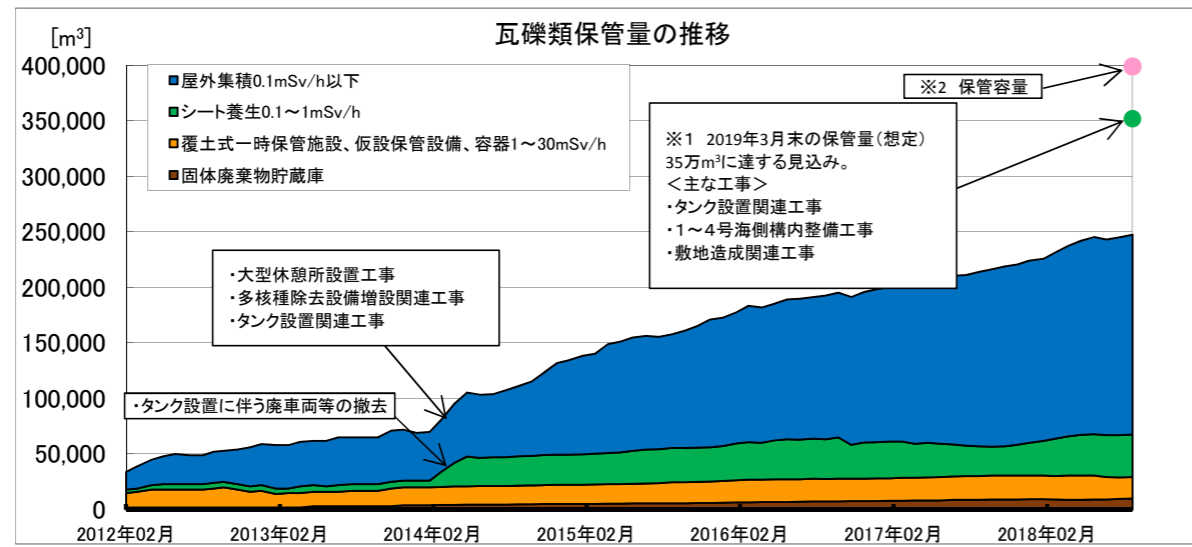
※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



水処理二次廃棄物の管理状況(2018.9.6時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2018.9.6)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	767 本	0 本	4090 / 6368 (64%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	206 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,501 基			+4 基
			増設	1,330 基			+27 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	74 本	0 本			
多核種除去設備処理カラム	11 塔	0 塔					
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	201 本	0 本			
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,410 m ³	+11 m ³	9410 / 10700 (88%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量：9310 [m] タンク底部～水位計の保管量(DS)：約100[m]	

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.8.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年3月26日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.9.6時点)

